

# 大学の知財・技術移転の動向

2005年12月9日

慶應義塾長

安西祐一郎

# 1. 知財が結ぶ大学間の連携

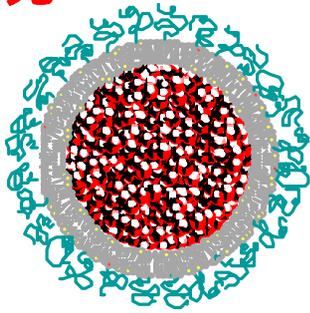
早稲田大学(理工学部)  
分子集合技術に関する特許

慶應義塾大学(医学部)  
生体適合性・評価技術に関する特許

大学の特許・ノウハウ  
をもとにベンチャー設立

## 株式会社オキシジェニクス設立(2002年12月)

世界初「いつでもどこでも誰にでも使用可能な人工赤血球」  
を開発



期限切れの献血血液から、  
ヘモグロビンを精製し、  
リポソームに内包した  
「セル型人工赤血球」

### 特徴

血液型不問、常温で2年間保存可  
ウイルス除去された高い安全性

### 用途

自然災害・緊急時の備蓄用輸血  
救急救命用の酸素輸液  
緊急手術における輸血代替  
がん・脳梗塞治療

年内に治験薬GMP製造  
設備が完成  
2007年に臨床試験開始



長年に渡り、**国家プロジェクト**として厚生労働省などから支援を受けてきた研究成  
果が、**実用化へ!** (産官学の共同プロジェクトとしての成功例に!)

## 2. イノベーションを加速化するための課題

### (1) 産業界から大学へ提供される研究費は少ない

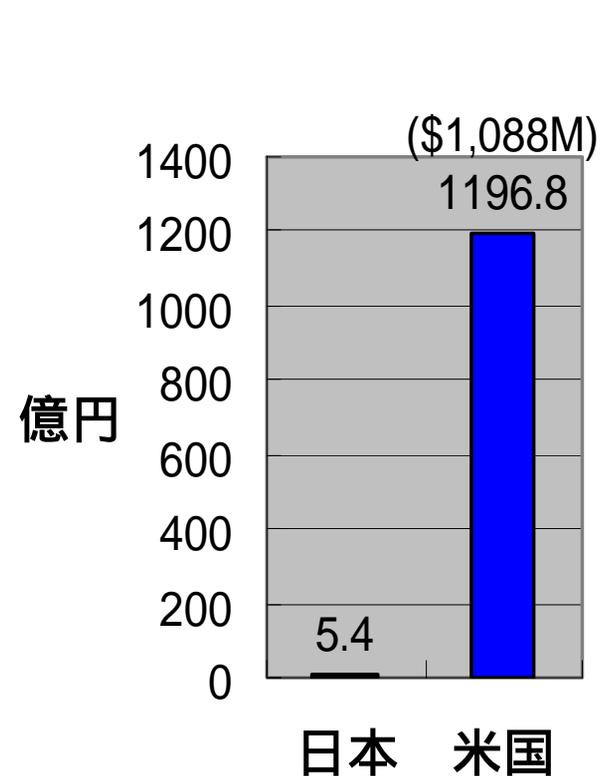
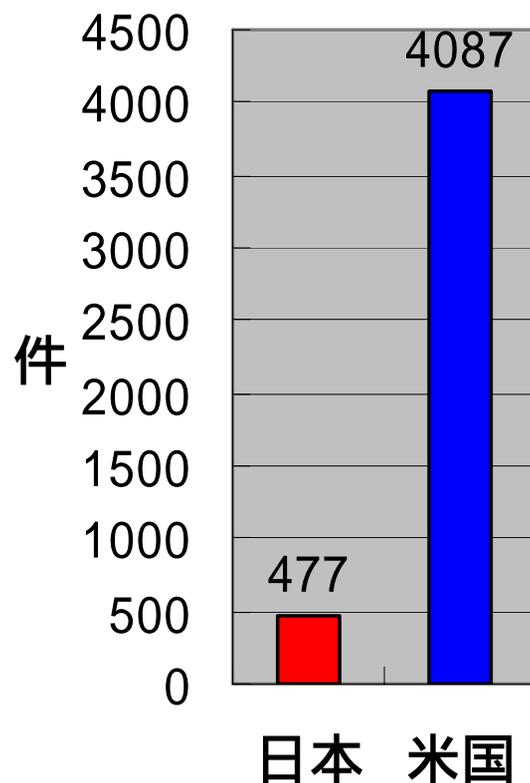
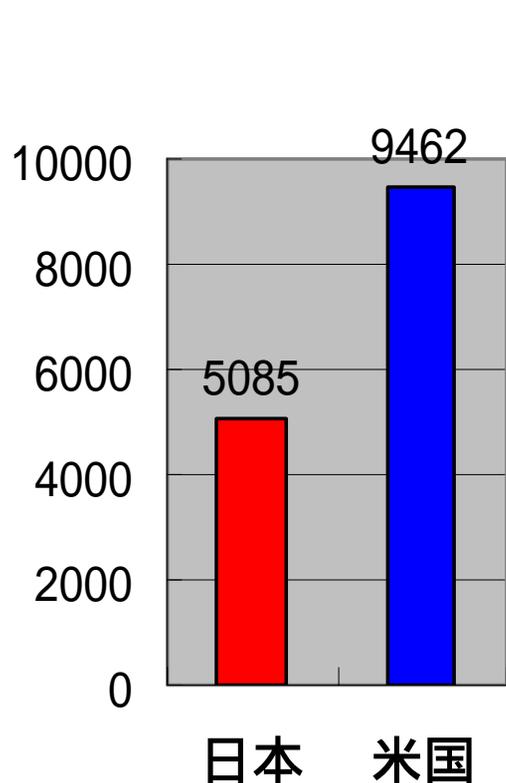
	研究費総額 (A)	民間資金 (B)	B / A	備考
日本	3兆3千億円	1.100億円	3.4%	民間は2倍の資金を外国機関に提供
米国	375億ドル (4兆1千億円)	50億ドル (5.500億円)	13%	

## (2) 日米の大学の比較(2004年度)

国内特許出願件数

実施ライセンス件数

ライセンス収入



日本: 16年度文部科学省調査

米国: AUTM US Licensing Survey 2004

### (3) 技術移転を促進させるために

- 特許出願は追いついてきたが、技術移転は加速化が必要
- 知財を事業に発展させるための競争的資金の拡充が重要
- 共有特許に関し、米国と同様な制度の導入
- 知の融合を促進させるマッチングファンドの拡大
- 国際標準へ向けた大学の特許の戦略的な活用策の検討
- 国公立大学のイコールフットイング